



出会いと対話でつくる共生社会

「障がいがあるからこそ、できることがある。」全ての人が心豊かに生きることのできる共生社会の在り方について考えました。

講義では、多様性を束縛しないで、相手の気持ちを考えて、生まれ変わることを分かち合える。グループワークでは、初対面でも、対話で一人一人の意見や考え方が、違っても最後まで聞いて、知ってあげることが大切であることを学ぶことができました。(受講者 56名)

〈研修内容〉

- 講義 演題 「出会いと対話でつくる共生社会」
- 講師 一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
代表理事 志村 季世恵 氏



○グループワーク



受講者アンケートから

- 様々な機会と場をとらえて様々な人たちとの出会いと対話していくことの大切さを改めて認識しました。(県・国職員)
- 障害を持っている人をハンデを持っていると感じていたが、自分にはできないことができる人なのだとはっと感じさせられることができた。相手の立場になって考えるということが簡単にはできないこと、それでも相手の立場を知ろうとすることが大切だと感じた。(学校教職員)
- とても深く、新しい視点からのお話ではっとすることが沢山ありました。日々のコミュニケーションにいかしていきたいです。(ボランティア等)
- ダイアログ・イン・ザ・ダークを通して社会の壁が少しでも薄くできるのではないかと希望が持てました。遊びの要素があることにとっても良いと感じました。(一般)
- web参加でしたが、講義は大変勉強になりました。「障害を能力にする」という目からうろこ。小学教育の中にダイアログ・プログラムが実施されるようになると良いと思いました。(一般)
- ダイアログの活動がコロナ禍の中でも、多岐に渡って広がっていることがわかり、とても勇気づけられました。(一般)